



## ～技術協力プロジェクト再始動 with コロナ～ カンボジア

作成：上下水道局海外事業課 発行日：令和2年10月21日



カンボジアには、本市職員2名がJICA技術協力プロジェクトの長期専門家として派遣されています。新型コロナの影響により、一時帰国しておりましたが、9月にカンボジアへ再渡航し、現地業務を再開しました。今回は、水道分野の矢山専門家による現地レポートです。

北九州市上下水道局がカンボジアに対して長年支援を続けている**水道分野での「JICA技術協力プロジェクト」の7代目長期専門家**として、2018年に家族3人で渡航しました。カンボジアの水道行政を所管する工業科学技術革新省(通称:MISTI)内のオフィスに勤務し、**カンボジア全土の水道供給能力向上のため、組織体制強化・人材育成へのサポート**を行っています。



プノンペンの市場の様子  
マスクを着用した人はほとんどいません

カンボジア保健省によると、10月8日時点で、国内の新型コロナの感染者数は281例と少なく、死者も出ておらず、**東南アジア他国と比較しても安定した状況**です。国内での活動制限も特にありません。

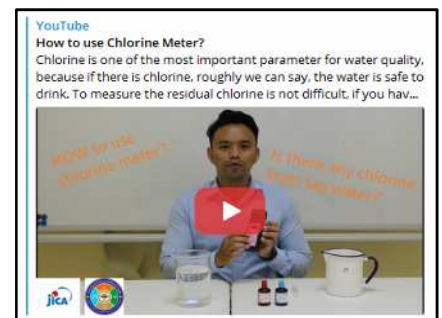
首都プノンペンの街なかを見渡しても、マスクを着用している人をほとんど見かけなくなり、コロナ前の活気を取り戻しているように感じます。工業科学技術革新省でもしばらくの間、全職員を対象にテレワーク業務を導入していましたが、10月からは通常勤務に戻っています。

その一方で、新型コロナ対策のため、施設の入口での手の消毒や検温を徹底している印象を受けます。たとえば、右の写真のように、工業科学技術革新省の庁舎の入口にも、人手を介さずに検温や消毒のできる看板が設置されました。



**技術協力とは元来、現地の人々と膝を突き合わせ、相手の意見をよく聞き、寄り添いながら仕事を進めていくもの**です。しかし、新型コロナの影響で大勢を集めて研修を行うことが難しくなりました。

そこで、現在、**YouTube を活用した研修教材の作成**を進めています。カンボジアではスマートフォンを所有する人の割合は極めて高く、一人で複数台所有している人も珍しくありません。また、受講生が全国各地に散らばっていることもあり、YouTube を活用することによって、**いつでも・どこでも研修教材にアクセスすることが出来るようになります**。この試みは始めたばかりで、今後は、動画コンテンツの充実、受講者の意見のフィードバック、撮影機器の購入等が課題となっています。



YouTube での残留塩素の測定実演

新型コロナも収束の目途が立たず、カンボジアへの渡航自体も非常に困難な状況です。だからこそ、現地にいる私ができることをしっかりと考え、行動し、現地の課題解決に向け、これからもカンボジアに寄り添った技術支援を行っていきたいと思います。

**報告者：上下水道局 海外事業課 海外事業担当係長 矢山 将志**

専門家として全国各地を飛び回り、ハードな日々が続くこともありますが、休みの日には趣味のゴルフでストレスを発散しています。普段仕事では知り合えない方々と知り合うことができ、とても勉強になります。



ソーケン副首相(右前)と三上・在カンボジア大使(左前)、報告者(左奥)